

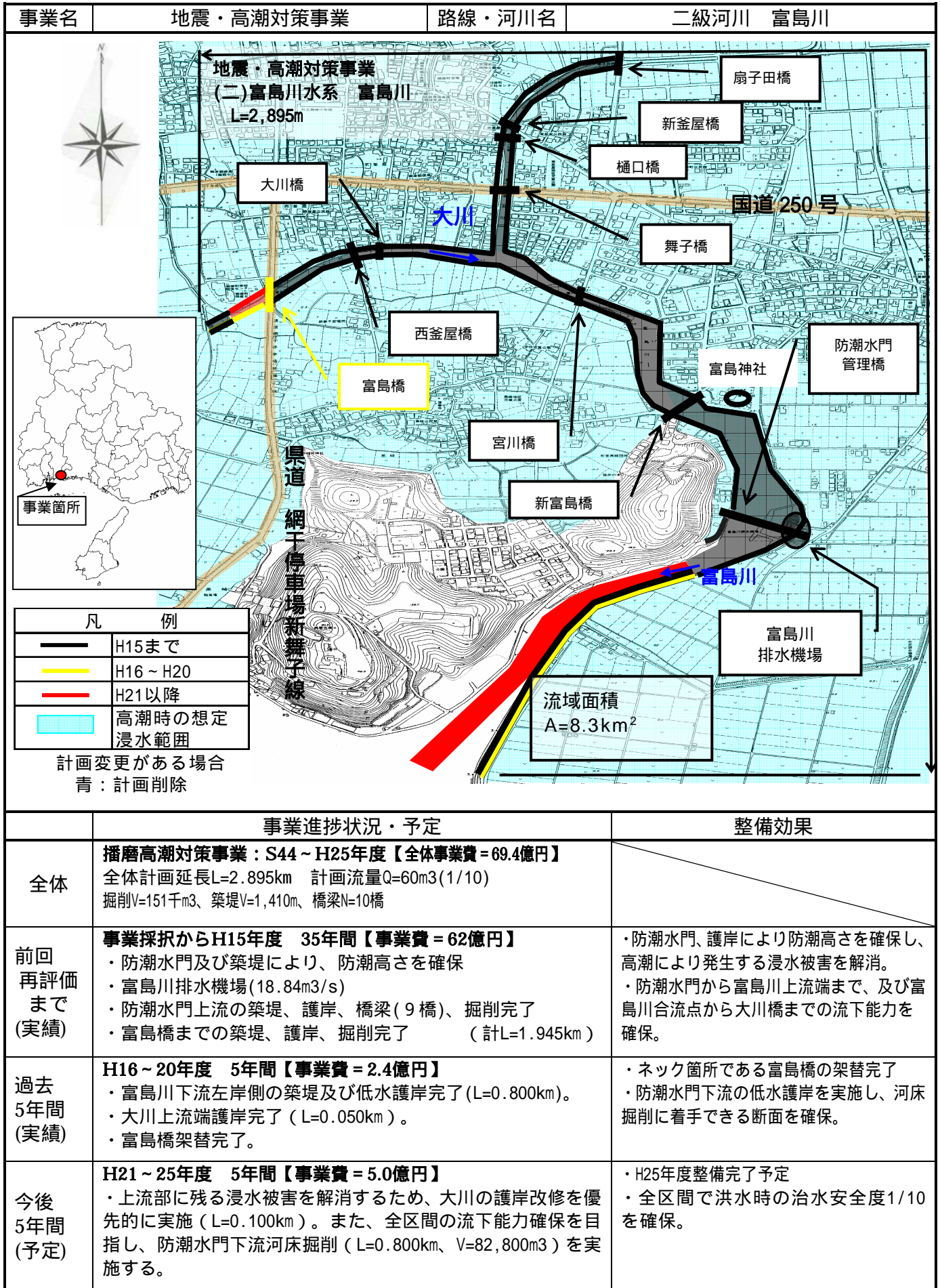
継続事業評価調書  
【河川事業】

土木局 河川整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	県土整備部 土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課 森脇康仁 (都市河川係長 寒川美樹)	内線	4408 (4417)
事業種目	河川事業	事業採択年度	S44	現計画	再評価時点(H15)
事業名	二級河川富島川水系 富島川 地震・高潮対策事業	着工年度	S44	総事業費	69.4億円
		再評価年度	H10(前回) H15(整備計画策定)	内地補償費	8.1億円
事業区間	たつの市御津町黒崎～釜屋			完成予定年度	H25
所在地	たつの市御津町黒崎～釜屋			進捗率 (内用補捗率)	92% (90%)
				残事業費	5.0億円
事業の目的			事業内容		
昭和40年台風23号が満潮時に来襲しても安全に対処できるよう、高潮護岸を整備する。 併せて、洪水に対しても1/10の治水安全度を確保し、地域住民の安全・安心な生活環境を守る。			現計画		前回(H15)
			計画流量	60m <sup>3</sup> /s(1/10)	60m <sup>3</sup> /s(1/10)
			整備延長	2,895m	2,895m
			橋梁	10橋	10橋
			高潮排水機場	18.84m <sup>3</sup> /s(1/50)	18.84m <sup>3</sup> /s(1/50)
			〔負担割合 国:3/10, 県:7/10〕		
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成15年度「富島川水系河川整備計画」を策定し、事業を推進している。</li> <li>平成15年度整備計画を策定した時点から、事業を取り巻く社会情勢は特に大きな変化は無く、当該河川の改修を望む声は高い。</li> </ul>				
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>高潮対策は、防潮護岸、防潮水門、高潮排水機場とも概成している。</li> <li>洪水対策は、水門下流部約800mの河床掘削、及び支川大川上流部の護岸整備・河床掘削を残す。</li> </ul>				
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該地域は、昭和40年台風23号による高潮により甚大な被害を受けている。また、昭和51年台風17号により浸水面積600ha、浸水家屋1,700戸の洪水被害を受けている。</li> <li>富島川水門より上流部はほぼ概成し、河口部分の河床掘削及び支川大川の河川改修を残している。未改修区間の流下能力は、最も低い箇所では計画流量の50%程度となっており、引き続き河川改修を行う必要性は高い</li> </ul>				
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>費用便益比 B / C = 5.9</li> <li>残事業は河床掘削及び護岸工であり、事業執行環境は整っている。</li> </ul>				
3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>河口部は良好な汽水域であり、環境の保全に努めるとともに水生生物の生息などに配慮した河岸形成に努めている。また、上流部では、特に富島神社付近で親水階段等を設置し、親水性の確保に努めている。</li> </ul>				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況の流下能力は計画流量の50～75%程度しかなく、洪水被害防止の観点からも、早期に地域の安全安心を確保する必要があり、事業の優先性は高い。</li> </ul>				
再評価の結果	継続	左の理由	上記の理由により、事業継続が妥当である。		

## 事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）





# 流域概要図



# 被害状況(S40台風23号 S51台風17号)新聞記事

October 10

## 広報みつ

TEL 07833 1001 7975-13

### 災害復旧に全

#### ポンプ場設置の早期完成を



このポンプ場は、台風被害を受けた地域の復旧に重要な役割を果たす。建設が進捗しており、早期完成が望まれている。

#### 被災住宅に資金を融資

被災した住宅の復旧のために、政府が資金を融資している。これは被災者の生活を支援するための重要な措置である。

#### 各所で被害続出

##### 損害約一億円にのぼる

台風の影響は各地に波及し、被害が拡大している。総損害額は約一億円に達している。復旧作業が急務とされている。

各所で被害続出

### 損害約一億円にのぼる




この写真は、台風被害の深刻さを示しています。被害は各地に波及し、復旧作業が急務とされています。

出典：「広報みつ 昭和40年10月」



# 浸水状況 ( S51台風17号 )

## 富島川下流

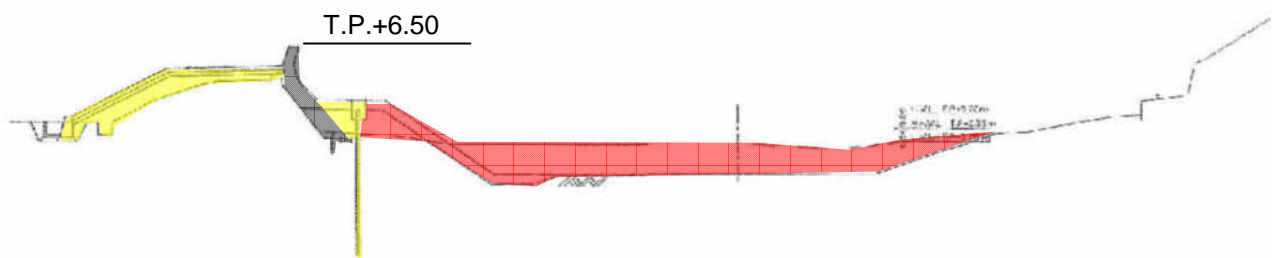


# 整備状況

富島川河口部(築堤護岸整備済)

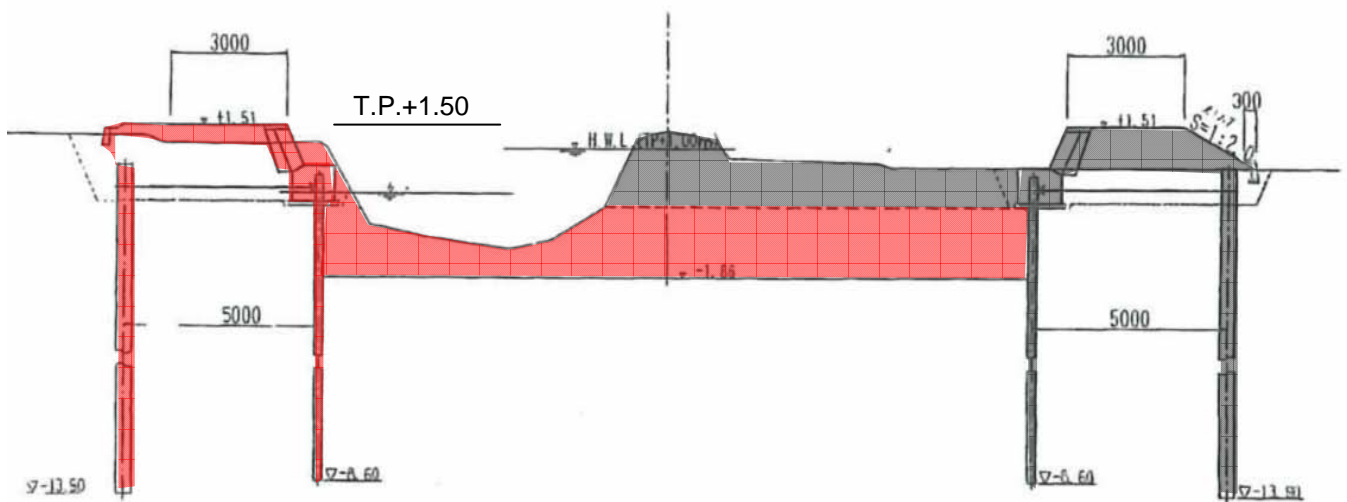


富島川水門下流区間 (河床掘削、高潮堤防護岸)



# 整備状況

## 大川上流部 (未整備箇所)





## 富島川 地震・高潮対策事業スケジュール

	H15まで	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
調査	■										
用地買収等	■						■	■			
掘削	■	■						■	■	■	
築堤	■	■	■						■	■	
護岸	■		■	■						■	■
橋梁	■										
排水ポンプ	■										

< 凡例 >

■ 当初計画

■ 実施計画

## 富島川 地震・高潮対策事業の費用便益比

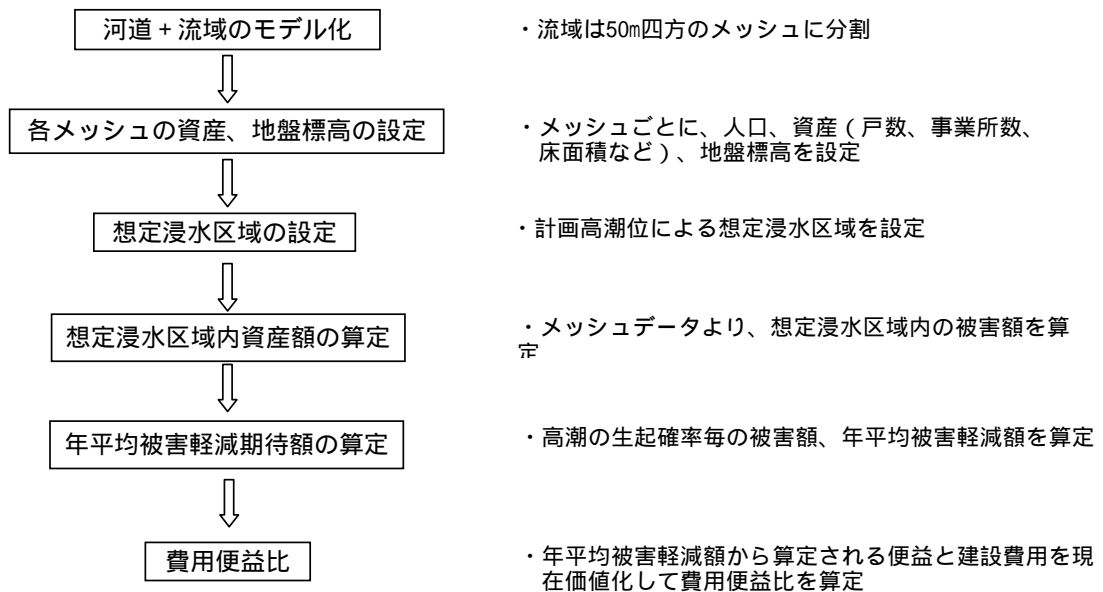
### (1) 費用便益比の考え方

- 1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化  
 被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)  
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用 + 残存価値
- 2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

### (2) 算定に用いた資料

治水経済調査マニュアル(案) 国土交通省河川局 平成20年2月

### (3) 便益(B)の算出方法



### (4) 費用便益(B/C)

便益(B)		費用(C)			B / C
総便益 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
107,211.1	計画高潮位(T.P.+3.00m)に対して 浸水面積 446ha の解消 浸水戸数 759戸 の解消	18,202.1	16,196.1	2,006.0	5.9